

No. 257

令和7年10月1日

埼玉県公立小学校 校長会速報

埼玉県公立小学校校長会事務局

〒336-0021 さいたま市南区

別所 1-2-8 インテルU403

TEL 048 (711) 9851

発行人 会長 福島みどり

編集人 広報部長 川端 浩司

令和7年度 第2回常任理事会・理事会

埼玉県公立小学校校長会第2回常任理事会・理事会が、9月17日(水)にオンライン会議で開催された。今回、常任理事会と理事会は効率化と時間短縮の観点から同時に行われた。今年度の「学校教育の充実・進展」(県教委への要望書)、全連小の動き、県中央大会、各部の活動等について話し合われた。また、理事会の冒頭に埼玉県教育局市町村支援部吉田 勇部長から「市町村支援部としての今年度の課題」という演題でご講話をいただいた。続いて、福島会長の挨拶に先立ち、7月23日(水)にご逝去された小鹿野町立両神小学校の徳茂亜希子校長のご冥福を祈り、哀悼の意を表するために、全員で黙祷を捧げた。

以下、当日の概要を掲載する。

福島みどり会長 挨拶



皆様、こんにちは。本日は、御多用の中、本年度、第2回常任理事会・理事会に御出席いただきまして、ありがとうございます。

各学校におかれましては、順調に教育活動が展開されていることと存じます。行事も多く、大変多用な時期ということも踏まえ、本日は、ハイブリット形式によるオンライン会議という形で開催させていただいております。

ここで、前回4月22日(火)の第1回常任理事会・理事会以降の県小学校校長会の活動状況についてお伝えします。

まず、5月13日(火)に大宮ソニックシティ大ホールにて、定期総会・研修会を669名(約87%)の会員の出席を得て、開催いたしました。この総会は、会員が一堂に会し、活動方針や活動内容の共有に加え、顕彰者の労をねぎらい、会員皆で感謝する場、そして、新会員を歓迎し、同じ目標に向かって進んでいこうと校長会としての結束力を高める重要な場でもあります。無事に開催できましたことを関係の皆様へ改めて感謝申し上げます。

また、研修会では、日本睡眠学会副理事長の千葉伸太郎氏をお迎えし、「寝る子は育つの未来を創る～Pediatric Sleep Health～」という演題で御講演いただき、多くの事例やエビデンスをもとに、睡眠の大切さについて示唆に富んだお話を伺いました。子どもたちの睡眠を含めた望ましい生活習慣のためには、まずは大人の生活改善、社会環境の整備であると、私たち自身の睡眠について見直すとともに、児童、保護者、地域とともに考えていきたい新たな視点をいただくことができました。

5月23日(金)には、全連小の総会・研修会が東京のニッショーホールで開催されました。各議案が承認され、令和7年度の活動方針が決定されるとともに、研修会では文部科学省初等中等教育局教育課程課長の講演や関係課から教育課題と今後の施策についての行政説明がありました。

6月19日(木)、20日(金)には、新潟県新潟市の朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター及び市内会場において、関東甲信越地区小学校長研究協議会新潟大会が開催され、埼玉県から82名が参加しました。1日目には開会式と全体会、記念講演が行われ、2日目には12分科会20分散会が行われました。本県からは、嵐山町立菅谷小学校の荒川統校長先生と、越谷市立平方小学校の古橋立哉校長先生に提案・発表をしていただきました。各分散会において熱心な協議が行われ有意義な研究協議会となりました。

7月9日(水)には、全連小の小学校長会長連絡協議会がKKRホテル東京で開催されました。全連小の松原会長から、全連小活動の価値や意義「つながり学び 国に声を届ける」ことや、全連小スローガンのもと、活動の方向性について説明がありました。また、国の動向や小学校教育の充実に関する文教施策並びに予算についての要望活動等について、情報提供がありました。また、文部科学省初等中等教育局児童生徒課長からの行政説明、それを受けて各都道府県の状況や取組について情報交換を行いました。

7月11日(金)には、第1回埼玉県・さいたま市小学校校長会連絡協議会を実施いたしました。県とさいたま市の「連携に関する覚書」について共通理解を深めるとともに、全連小・関ブロ等に関する協力体制について協議を行いました。今後もさいたま市との連携をより緊密なものとし、相互に学び合いを深めていきたいと考えております。

8月20日(水)には県教委の幹部との意見交換会を中学校長会と合同で実施し、「埼玉県小・中学校教育の充実・進展について」要望いたしました。このことにつきましては、報告事項のところでも申し上げます。以上が、活動状況の概要となります。

本日の常任理事会・理事会では、10月に開催される全国連合小学校長会研究協議会福岡大会について、また各部の活動状況や県教委との意見交換会について、全連小や関ブロの動き等について御報告させていただきます。予定です。

そして、11月13日(木)に実施予定の県小学校校長研究協議会中央大会「東部地区 春日部・越谷・宮代大会」について、また令和8年度の中央大会(関ブロ埼玉大会プレ大会)及び令和9年度関ブロ埼玉大会本大会等について、現状報告と協議を行うことになっております。特に今年度の中央大会においては、研修推進部や東部地区・春日部市・越谷市・宮代町の校長会から成る実行委員の皆様にご準備を着々と進め

ていただいているところです。8月7日(木)には、第1回実行委員会が開催されました。校務御多用のところと存じますが、どうぞよろしく願いいたします。

また、今年度の定期総会において、「令和8年度以降の総会について」会則の改正を含めて、審議し、承認をいただいているところでございますが、本日、改めて「令和8年度定期総会(オンライン)について」説明をさせていただき、計画(案)について提案いたします。

常任理事・理事の皆様におかれましては、限られた時間ではありますが、是非、忌憚のない御意見、御協議をいただきますようよろしく願いいたします。

結びに、本会の運営につきまして、常任理事・理事の皆様をはじめ、各部・委員会の皆様方には、総会や各種の事業、各専門部会・委員会等の円滑な推進のために、また班の連絡調整等に御尽力いただいておりますことにこの場をお借りして改めて感謝申し上げます。私のあいさつとさせていただきます。本日は、どうぞよろしく願いいたします。

報告内容

1 県教委への要望書について

8月20日(水)に小学校校長会を代表して、会長、副会長、対策部長、幹事長、そして事務局長・次長が、中学校長会の会長等とともに、埼玉県教育局の幹部の方々に直接お会いし、意見交換会を行いました。要望書「埼玉県小・中学校教育の充実・進展について」を吉田市町村支援部長にお渡しするとともに、現場の校長の声を届けてまいりました。

子供たちへのよりよい教育の実現を目指して、日々懸命に職務にあたっている教職員が、「働きやすさ」や「働きがい」を実感できるよう、人的・物的措置の一層の充実と教育諸条件の整備充実等について、重点を設け、要望してまいりました。

*要望書については、本会ホームページに掲載しています。



中学校長会原口穰会長(左)から吉田市町村支援部長(右)に要望書をお渡ししました

- 2 全連小・関ブロの動きについて
- ・ 第1回小学校長会長連絡協議会（7月9日）
全連小活動の価値や意義
～つながり 学び 国に声を届ける～
全連小スローガン「自らの使命を自覚し、志高く挑戦し続け、子どもたちと学校の未来を描くビジョンをもち、確かな実行力をもって学校づくりを進める校長会」
 - ・ 令和7年度全連小関ブロ新潟大会
6月19日（木）20日（金）新潟県新潟市で開催
 - ・ 令和7年度全連小福岡大会
10月16日（木）17日（金）
福岡県福岡市で開催予定
 - ・ 全連小三地区対策・調研担当者連絡協議会
9月26日（金）東京会場開催
 - ・ 文部科学省はじめ国への要望書（10項目）提出（7月8日）
 - ・ 国の動向等
 - ① 給特法改正案成立（6月11日）
 - ② 経済財政運営と改革の基本方針2025
（令和7年6月13日閣議決定）
公教育の再生・研究活動の活性化（質の高い公教育の再生）
 - ③ 教育課程企画特別部会のこれまでの審議の状況
 - ・ 東日本大震災・原子力災害における福島県の現状と課題
9月18日（木）19日（金）河野秀樹さいたま市代表が福島第一原発・被災地視察
 - ・ 全連小 WEB 調査実施 協力に感謝 調査結果の活用を
 - ・ 全連小福岡大会 大会要録発出済み確認を
 - ・ 関ブロ大会令和8年度は山梨大会（甲府市内会場）、令和9年度は埼玉大会（大宮ソニックシティ会場）で開催予定
- 3 各地区の活動状況について
*各地区常任理事から地区大会について報告
- 4 各部の活動状況について
- (1) 研修推進部
11月13日（木）の中央大会「東部地区 春日部・越谷・宮代大会」について計画と実施。中央大会の「大会要録」「研究紀要」を作成予定。県内8地区校長研究協議会(地区大会)への協力。令和7年度関ブロ新潟大会での提案発表と分科会への参加、全連小福岡大会での分科会への参加。
- (2) 対策部
県教委への要望(埼玉県小・中学校教育の充実・進展について)、働き方改革及び処遇手当の実態調査、給与実態調査と報告書作成。後日報告書で知らせる。県の退職手当・年金情報について12

月頃情報提供予定。

- (3) 広報部
「会報」105号発行。「速報」254号・255号・256号発行。HPの更新。全連小広報活動への協力。全連小80周年記念誌発行に向けて作成を継続中。
- (4) 調査研究部
県独自の調査(教育課程、人権教育、生徒指導)。全連小調査への協力。中央大会の資料、研究紀要で報告予定。



協議内容

- 1 令和7年度中央大会(東部地区 春日部・越谷・宮代大会)の運営について、令和8年度中央大会(関ブロプレ大会)に向けて
 - ・ 令和7年度東部地区 春日部・越谷・宮代大会の開催方法は、全会員参集型で実施
 - ・ 会場は正和工業にじいろホール、春日部視聴覚センター、粕壁市民センター、越谷市中央市民会館、宮代町コミュニティセンターの5会場
 - ・ 分科会は提案発表と学校経営に関する情報交換の2つの柱で協議
 - ・ 昨年度よりも各分科会の人数が増えるため、情報交換の際は4グループで
 - ・ 令和8年度中央大会(関ブロプレ大会)は、11月18日(水)開催予定。大宮ソニックシティ会場で、全会員参加予定
- 2 令和8年度関ブロ山梨大会参加者割当について
関ブロ山梨大会は、令和8年6月11日(木)12日(金)開催予定。80名が参加。南部地区、さいたま市より提案者。
- 3 令和8年度定期総会(オンライン)について
 - ・ 令和7年度の定期総会(5/13)で会則の変更(オ

ンライン総会に変更)について承認済。

- ・ 総会の運営は運営委員 17 名が行い、さいたま共済会館に参集。代議員 63 名はオンラインで出席。
 - ・ 令和 7 年度の理事を通して、令和 8 年 3 月末日までに 63 市町村ごとに、代議員の選出を依頼。
 - ・ 令和 8 年 4 月 6 日(月)第 1 回運営委員会、令和 8 年 4 月 22 日(水)第 1 回常任理事会・理事会(参集型)、令和 8 年 5 月 13 日(水)オンライン総会(代議員による)※期間を限定して総会の様子をオンデマンド配信。
 - ・ 顕彰者及び退任役員は、要項のページ紹介のみ。感謝状等は自宅に送付。
- 4 令和 9 年度関ブロ埼玉大会について
- ・ 令和 9 年 6 月 10 日(木)11 日(金)大宮ソニックシティ大ホール
 - ・ 講演会講師 赤城ホールディングス(株)赤城乳業(株)井上創太代表取締役社長
- 5 令和 10 年度以降の中央大会について
- ・ 参集型の良さを生かした年に一度の全員研修とし、会場を大宮ソニックシティに固定する。
 - ・ 分科会終了後に講演会を実施。
 - ・ 運営にかかる仕事は、さいたま市を加え 5 地区が持ち回りで行う。(R10 北部 R11 西部 R12 南部 R13 東部 R14 さいたま市)

諸連絡・依頼事項

- 令和 8 年度校長会会費等についての依頼 後日各班理事を通して会員に配付
- 令和 7 年度末顕彰予定者名簿作成依頼
- 令和 8 年度以降学校数等調査依頼
- 第 3 回常任理事会・理事会(オンライン) 令和 8 年 1 月 23 日(金) 14:00~15:30

【事務局からの報告】

- ・ 今年度も公益財団法人日本教育公務員弘済会埼玉支部より、教育団体助成(47 万円→昨年度より 3 万円減)を受け取ることができました。この助成金は研究協議会(中央大会)にかかる要録等作成費に充てさせていただきます。
- ・ さいたま市の河野校長先生より、被災地視察の記録をいただきましたので掲載します。

【吉田 勇市町村支援部長講話の要旨】



演題「教育行政上の諸課題について」

講師：埼玉県教育局市町村支援部長
吉田 勇 様

- 1 はじめに
- 2 教育行政上の諸課題について
 - (1) 学力向上
 - (2) 総合的な不登校対策
 - (3) 教職員の不祥事防止
 - (4) 学校における働き方改革の推進
 - (5) 管理職選考(積極的な受考)と管理職人事
 - (6) 優秀な教職員の確保
 - (7) その他の課題
 - (8) 個人的な関心事
- 3 おわりに

○講話の感想

解決しなければならない教育課題について全県的な視点からの情報提供があり、校長職として学校経営を行うにあたっての示唆に富むご講話でした。

様々な面で当たり前のことをコツコツと大事に取り組んでいくことが最終的に功を奏することを実感しました。

(速報担当：川端・加賀谷・篠崎・菊地・山本・関根・麦倉・村木・阿久津)

令和 7 年度 福島県小学校長会

東日本大震災被災地(福島)視察・懇談会の記録

さいたま市立美園小学校長 河野 秀樹

I はじめに

2011 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分の東日本大震災から 14 年半。さいたま市では震災は風化しつつある。ここ福島の相双地区は、地震・津波に加え原子力災害という複合災害によって、未だに厳しい生活を強いられている。事前に資料から、被災 12 市町村の児童数は震災前と比べて 14%に減少、双葉町は現在も避難先のいわき市で教育活動を実施、学校数は震災前と比べて 14 校減少(2024 年 5 月現在)未だに県内外へ避難している 18 歳

未満の子どもは3千人を超えていること、このような困難な課題に対して、福島県の小学校は「学校は復興の最大の拠点」という信念で向き合い、他校との連携・交流活動や少人数指導の実施、地域学習の充実などに取り組んでいることなどを知った。しかし、今回は現場や資料館の見学だけではなく、校長先生方との懇談会からいかに自分が無知であったかに気付き、福島の校長先生方の熱い思いや取組を知るところとなった。

II 視察等

〈9月18日(木)〉

視察1：震災遺構 浪江町立請戸小学校



- ・帰還困難地域が未だ町の80%である。
- ・3月11日には校舎の一階の全てを飲み込む5m半の津波が押し寄せ、職員室の天井の鉄筋が崩れ、校長室の金庫を倒し、学校の給食室前に車が挟まっていた。
- ・2年生以上の児童82名

と教職員12名は全員生き延びることができた。

- ・地震後8分で1.6km先の大平山に向けて避難を開始できたのは、その年にある保護者から山へ避難する訓練が必要ではとの声があり、その計画を練っていたところで起きた津波で、全教職員に山への避難がイメージできていたからだという。(情報収集や意思統一の大切さ)
- ・教員は車を押し、子どもをおんぶしながら山に行ったが、登り道が分からない。そこで、まちをよく知っている子どもが「こっちだよ」と案内をしてくれた。(地域理解)
- ・体育館には卒業証書授与式の看板が掲げられたまま、床が割れて陥没していた。

視察2：東日本大震災・原子力災害伝承館

- ・プロローグでは、西田敏行さんのナレーションで「災害の自分事化」「福島の経験と教訓の未来への継承」が伝えられた。



- ・小学生や中学生などが訪れていたが、福島の教員は研修で必ず来るとのことであった。
- ・この展示で放射線物質の範囲を示す地図(SPEEDIスピーディー)は、今は使われていないことを知った。

懇談会：相馬・双葉地区小学校長会(Jピレージ)

- ・元々は東電が提供した施設であった。震災時は、原子力災害対応の拠点となっていた。

- ・復興加配はあるけれど、教職員不足なので加配は来ていないのと同じである。
- ・福島県内でも、年齢や地域(浜通り、中通り、会津)による意識の差が大きい。
- ・双葉の小学校が今年2月に避難先のいわき市から令和10年度に帰還することが決まっても、意識調査や区域外通学者の状況などから、40名が16名程度になるとの試算である。
- ・これだけ復興が遅れたのは原子力災害のせいで、せめて地震と津波だけならばと悔やむ先生方。放射線地域に戻れず、コミュニティが消滅したと嘆く。

〈9月19日(金)〉

視察3：東京電力福島第一原子力発電所構内

- ・廃炉資料館で事故の経緯や現在の状況説明とともに、安全への思い込みや驕り、過信についての謝罪があり、この災害に向けて正面から向き合い、責任をもって安全に廃炉に向かうとの話があった。
- ・施設内の除染、燃料プールからの取り出し、デブリの取り出し、汚染水の処理などの説明。
- ・まだまだ帰還困難区域で立入禁止や、商店や住宅の更地などが見られる国道6号を通り、東京電力福島第一原子力発電所に向かった。
- ・長袖着用で線量計を渡されて原子炉建屋付近でバスを降り説明を聞いた。被爆の恐れがあり、10分程度。私は後列で聞いたが、前列の方は0.012mSv、私は0.006mSv(1mSvミリシーベルト=1000μSvマイクロシーベルト)で、本ルートでは0.1mSv以下を設定し、5分の1の0.025で警報音が鳴るものだった。0.01は歯のレントゲン1回分の被ばく量と同等。

III 感想

14年半たっているというのに、当たり前のことができていない。まだまだ復興は道半ば。子どもの心の問題や震災未経験の子どもたち。震災後採用や他地域からの教職員の増加、教育や信頼感は欠落し①学力向上、②体力向上、③明日の福島の子を明るくすることに力を入れてこられた。特に、①放射線教育、②防災(減災)教育、③ふるさと教育を通して、子どもたちが精いっぱい明るく生きて、未来を夢見ることができるように努めている福島県の教職員に敬意を表します。本会も10回目を迎え、来年で一区切りをされるとのこと。今回貴重な研修の機会をいただいた、福島県小学校校長会、埼玉県・さいたま市校長会、美園小の教職員に感謝します。今回の配布された資料「東日本大震災記録集 ふくしまの絆 総合版」は福島県小学校長会HPにリンクがありますが、他資料とともに興味ある方はお声がけください。(令和7年9月23日作成)